



め た せ こ い あ

至 創 努 校
誠 造 力 訓

島根県立吉賀高校 〒699-5522 鹿足郡吉賀町七日市 937

電話 (0856) 78-0029 FAX (0856) 78-0742

HP アドレス <http://www.yoshika.ed.jp/>

吉賀高校の取り組み

吉賀高等学校 校長 熊谷修山

先月号では、学力の三要素と、新しい学習指導要領で示された「主体的、対話的で深い学び」という学力の育成方法について書きました。そのことを踏まえて、今号では吉賀高校での学力の育成在り方について書かせていただきます。

吉賀高校は、ご承知のとおり小さい学校ですが、さらに授業を1年次から英・数・国を中心に習熟度別に行い、2年次からは進路別にコース分けをして基本的に少人数で授業を行っていますので、必然的に生徒一人ひとりが指名されて答える回数も多くなります。その意味で、吉賀高校の授業は十分に「対話的」だと言えますが、現在はそれをさらに進めて、より対話的な要素、特に生徒同士の対話・討議の機会を意識的に増やしてきています。ペア・ワークであったり、4～5人のグループ・ワークであったり、あるいはグループ同士の討議・ディベートであったりです。中でも、英語は言葉を習得する教科ということでその手法について先進的ですので、以前から対話的に授業が進められています。また、近年はより思考力が問われる国語や数学でも、「他者に説明する」あるいは「自分とは異なる他者の意見を聞く」要素として、「対話」の時間は比較的多くなっています。一方、地理・歴史や理科の授業は、生徒の知らない新しい知識を伝えることが重要ですので「講義」が主体となりますが、「対話」はまとめの演習などで取り入れるようになってきています。また、体育の授業でもチームでの対話を取り入れるようになってきています。吉賀高校も含め普通科の高校では、これまで知識の伝達が中心で対話的な要素は多くありませんでしたが、思考力や表現力、さらにはコミュニケーション力も育てるために、「対話的」な要素は次第に増えてきています。

また、吉賀高校は個別指導に力を入れています。というより、この個別指導が生徒の進路実現を支えていると言っても過言ではありません。1年次から、勉強が得意な人もそうでない人も、それぞれの希望に応じてあるいは必要に応じて、個別の添削指導を行っています。先般、株式会社カネキ様にご寄贈いただいた職員室前のホワイトボードは、その個別指導のために有効に使わせていただいています。もちろん、個別指導は吉賀高校の特徴ですので今後も継続していきます。

ところで、これも前号で書きましたが、頭の中を整理(知識を構成)することや、新しい知識を「覚える」ことなどは、一人ではできない面でもあります。従来の高校の授業では、知識を伝達し、それを定着させるドリル的なことも行っていましたが、「対話的」に授業を行うと、どうしても基礎知識・技能の定着のための時間が削られてしまいます。しかし、基礎知識・技能は「対話的」な授業を成立させるためにも必要不可欠な前提条件です。そこで、その基礎的な知識・技能の定着の部分を補うのが、一人でする家庭学習ということになります。それが、家庭学習がより重要になるということの意味です。吉賀高校は、その家庭学習の効率化を図るために、各自のスマートフォンやタブレットを使って学習するベネッセの学習支援クラウドサービス「Classi(クラッシー)」を導入しました。もちろん、家庭学習時間の確保といっても、生徒は部活動などにも取り組んでいますので、すぐに何時間も増やせるわけではありません。そこで、バスを待っている時間や、放課後や朝のちょっとした「すき間」の時間を使って基礎知識・技能の定着を図るために「Classi」を導入しました。今は生徒も教員も使い慣れる期間で、まだ十分には機能していない状況ですが、実際に活用していく中でウェブテストの配信なども行って、一人ひとりの基礎学力の定着を図っていきたくと考えています。

そして、学校の授業、個別指導と、家庭学習の間に位置しそれらをつなぐのが、この6月7日から吉賀町の支援によって開設された公設塾「よしか塾NEXT」です。今回は、この公設塾の目指す方向性について書かせていただきます。

フットサル 島根県大会 3年連続優勝!

全日本ユースフットサル選手権大会島根県予選

今年は5チーム(横田・大田・江津・浜田商業)が参加し島根県予選が開催されました。予選3試合をすべて勝利して島根県大会3連覇を果たすことができました。ご声援ありがとうございました。引き続き、中国大会2連覇をめざし準備していきます。

文化部の活動

美術部 -石見地区高校美術講習会-

6月1日(木)～6月3日(土)、2泊3日の日程で国立三瓶青少年交流の家で開催された。石見地区美術講習会・コンクールに美術部4名(3年)で参加しました。3日間天気にも恵まれ、講師の前原秀雄先生(SEED美術研究所)や他校の美術部の先生にも指導していただき、有意義な3日間を過ごすことができました。現在、1・2年生の部員がいないので、興味のある人は是非、入部をお願いします。



地域クラブの活動

6月17日(土)生徒10名が「田んぼの生き物調査」ボランティアとして参加しました。テント設営、おむすび作り、司会進行、生き物を探す子どもたちのサポートなどを地域の方々と協力して行い、多くの方々と触れ合うことができました。当日は晴天にも恵まれたため、いきいきと活動でき、地域の魅力に触れる貴重な体験となりました。



進路ガイダンス

5月19日(金)に3年生向け進路ガイダンスが行われました。今年度も希望進路別に分かれてそれぞれの分野の話を専門家の方から聞くことができる絶好の機会となりました。就職希望者対象には求人票の見方や面接マナー指導などの講義と実践が行われ、進学希望者はそれぞれ希望する学問分野に分かれて、県内外からお招きした約15の各種学校の方からブース形式にて説明を聞きました。わずかに2時間のガイダンスでしたが、間近に迫った進路決定の時期を見据えて真剣に説明に聴き入る3年生の姿がとても印象的でした。



島根総合体育大会結果

陸上部 主将：宇和佐京介

私たち陸上部は、5月26～28日まで出雲市の浜山陸上競技場で大会に出場しました。3年生は最後の大会でした。結果は上の大会の中国陸上に出場することができませんでしたが、自身の記録を更新するなど、良い結果の人もいました。応援してくださってありがとうございました。陸上はこれからのシーズンですのでこれからも応援の程よろしくをお願いします。

【顧問コメント】3年生にとって最後の大会となった県総体は、今年度は浜山公園陸上競技場で行われました。主将の宇和佐京介は走幅跳に出場し、自己ベストとはいきませんでした。5m77の記録を残しました。寺戸光輝は円盤投に出場し、26m36の自己ベストを更新しました。3年生になって故障が続いた實吉藍菜は800mに出場し、最後まで諦めずにゴールを目指し、見事2:57.08の記録を残しました。1、2年生もそれぞれ頑張りましたが、日々の走り込み量を上げて臨んだ黒田健は1500mに出場し、これまでの記録よりも10秒以上記録を縮めることが出来ました。秋の新人戦では、平素から練習の質と量を上げていき、メンバー同士の結束力を高めながら、さらに記録を伸ばしていきたいと思っています。これまで練習を支えて頂いた保護者の皆さんや技術指導をして頂いた他校の先生方にも感謝いたします。(勝部)

ソフトテニス部 主将：河野友紀

私たちソフトテニス部の総体の結果は、個人戦では1ペアがベスト32に入り、他4ペアが3回戦までで敗退、団体戦では松江商業高校と対戦し1-2で敗退という結果になりました。私たちの目標であった中国大会出場まであと一歩という悔しい結果となりましたが、部員10人全員で最後まであきらめずに戦うことができたよい試合だったと感じています。3年間苦しいこともたくさんありましたが、このメンバーだからここまでやってくることができたと感じています。そして、熱心に指導してくださった先生方やいつも応援してくださった地域の方々、今まで支えてくれた家族への感謝の気持ちを忘れずに、これからも色々なことに挑戦していきたいです。新チームのソフトテニス部はさらに人数は少なくなりますが、これからも応援よろしくをお願いします。ありがとうございました。



【顧問コメント】チームの気持ちが一つになり、戦った団体戦でしたが一回戦の松江商業高校に惜しくも1-2で敗れました。「無理」、「ダメです」とよく言う部員ですが、この団体戦では本気で勝とうと思う気持ちが感じられた試合で、生徒達の思いが感じられた試合だったと思います。保護者の方、地域の方、先生方等たくさんの支えがあっての大会だったと思っています。この感謝の気持ちを忘れないようしっかりまた指導をしていこうと思います。応援ありがとうございました。(小笹)

男子バレーボール部 主将：土井怜二

僕たちは6月1日と2日に出雲市浜山体育館で行われた県総体に参加しました。1回戦の江津高校戦では、2回戦の松江西高校戦を想定しサーブを攻めました。その結果、セットカウント2-0で勝利することができました。松江西高校戦ではサーブで攻めましたが、自分たちのミスが目立ってしまい、セットカウント0-2で負けてしまいました。大会を通して僕たちと強豪校の違いは、基礎技術の差だと知ることができました。今後は新キャプテンを中心に良い部活にしていってほしいと思います。応援ありがとうございました。

【顧問コメント】公式戦の緊張感の中で攻めるサーブを相手コートに入れるためには、1本正確にパスをするためには、ボールをミートしてスパイクを決めるためには・・・いざという場面や追い詰められた場面では、選手というより人間としての本性が出ます。そのような場面でも動じずにプレーするためには人間としての成長が必要不可欠であると思います。では、人間として成長するためには、学校や家庭でどのような意識をもってどのような生活を送ればよいのか・・・県総体は選手個人が、そしてチームが様々なことを体感できた貴重な大会となりました。今大会での経験を糧に選手が人間的に成長することを強く望んでいますし、選手が人間的に成長できるよう指導していきたいです。当日は多くの方にご声援いただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。(山崎)

女子バレーボール部 主将：茅原なつき

2回戦は石見智翠館高校と対戦し、2-0で勝ち、3回戦は松江農林高校と対戦し、0-2で敗退しました。石見智翠館高校は、何回か試合で対戦したことがあり、勝ったり負けたりしていた相手でしたが、最初から14人全員で今までにないくらい集中することができ、チーム一丸となって戦い、勝つことができました。3回戦はなかなか自分のリズムがつかめず、力を出し切ることができないまま負けてしまいました。3年間を振り返ると苦しいことやつらいこともたくさんありましたがこのメンバーだったからこそ乗り越えることができたのだと思います。試合の時には保護者の方や地域の方が応援に来てくださり、たくさんの力をもらうことができました。そしていつも私たちのことを考えて指導してくださった先生方への感謝の気持ちを忘れずにこれから受験勉強に励みたいと思います。応援ありがとうございました。

【顧問コメント】

大会初日の2回戦、石見智翠館高校との対戦では、序盤こそ相手の高さに押され、失点を重ねましたが、中盤サーブで追いつき、相手のミスにも助けられ1セット目を奪いました。2セット目、サーブとブロックが機能し、テンポの良い攻撃で得点を重ね、セットカウント2-0で勝利しました。この試合では、粘り強くボールをつなぎ、高い集中力で思うような試合展開に持っていくことができたと思います。2日目の3回戦、ベスト8をかけて松江農林と対戦しました。1セット目、相手のサーブとスパイクの勢いに押されリードを許す展開となりました。中盤追い上げましたが、振り切れセットを失いました。2セット目、序盤サーブで走られ、追いかける展開となりました。控えの選手の活躍もありましたが、セットカウント0-2で敗退しました。ベスト8に入ることができず、悔しい思いはありますが、選手はよく頑張ってくれたと思います。この大会での経験を忘れず、高い意識を持って練習に励んでいきたいです。大会には多くの方々に応援にかけつけていただき、大変ありがとうございました。(上野城)

サッカー部 主将：山本凌真

県総体では一回戦で明誠高校と対戦し0-2で敗れました。自分たちが試合でやりきれたことがある反面、課題もたくさん見つかりました。日々の練習からもっと突き詰めて冬の選手権に向けて頑張っていきます。また、今年度も6月4日に行われたフットサルの県大会で優勝し、7月2日に岡山で行われる中国大会に出場することが決まりました。全国大会出場を目指していきたいです。

【顧問コメント】明誠高校との1回戦。晴天の益田陸上競技場で対戦しました。試合終盤までは、吉高生らしく粘り強くイキイキとプレイしましたが、終了10分前から体力が落ち、集中力も欠き連続2失点。そのまま0-2で試合終了となり、部員・スタッフ共に悔しさを残すこととなりました。「自分からやる強気で」戦えるよう活動を続けます。たくさんの応援をいただきありがとうございました。(高橋)

中高一貫教育だより 吉賀地域中高一貫教育事務局(島根県立吉賀高等学校内)

吉賀高校一日体験入学で高校生活を体験!!

6月15日(木)に開催した「体験入学」には、吉賀町内4中学校の3年生41名に参加いただきました。現2年生による「学校紹介」では、各コースの特徴や学習活動の様子及び部活動の取り組みが紹介されました。続いて行われた「体験授業」には、数学と理科に分かれて参加いただきました。数学「来て、見て、触って?数学ライフ」では、4中学校が混合したグループ編成で、日常生活に見られる事象を数学的に検証しました。理科「DNAの抽出」実験では、バナナから実際にDNAを抽出し、DNAの鎖構造を確認したうえで、DNAの情報量の膨大さを知ることになりました。両授業ともに中学生がアクティブに学習した場面となりました。最後に、本校の11の部に分かれて「部活動体験」をしました。短い時間でしたが、本校の様子を理解していただけた機会となりました。中学生の皆様、ありがとうございました。

